

# ハーモニー

Harmony

第 42 号 2006 年 12 月 15 日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒 448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 第 14 回学術集会（名古屋）の報告                     | 2  |
| 第 14 回学術集会を終えて                         | 2  |
| 第 14 回学術集会参加者の声                        | 3  |
| 第 14 回学術集会アンケート結果                      | 4  |
| 養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト<br>－最終報告を終えて－ | 6  |
| トピックス                                  |    |
| 特別支援教育の推進のための学校教育法等の一部改正について           | 7  |
| 2005 ガイドラインによる心肺蘇生法                    | 8  |
| 日本養護教諭教育学会 2006 年度総会報告（速報）             | 8  |
| 2007 年度研究助成金申請者の募集                     | 9  |
| 日本学術会議協力学術研究団体の指定                      | 9  |
| 新・編集委員会委員のご紹介                          | 10 |
| 新・事務局体制について                            | 10 |
| 事務局より                                  | 10 |
| 編集後記                                   | 10 |

## ◆ 第14回 学術集会(名古屋)の報告 ◆

学会長 後藤ひとみ  
(愛知教育大学)

メインテーマとして「養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める」を掲げた本学術集会は388名の参加により10月8日～9日の日程を無事に終了致しました。ご参加頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

今回は日本養護教諭教育学会に改称してから10回目となる学術集会であることを記念して「養護教諭という職の存在をアピールすること、日本養護教諭教育学会らしい企画を工夫すること」をコンセプトとしました。この思いは、名古屋国際会議場での開催、「ブルー」というシンボルカラーのメッセージ(知性・鎮静効果・集中力)、過去の企画を網羅しつつ新たな企画も考案といった様々な取り組みへのこだわりとなりました。

この実現にむけて、後援や協賛依頼、大幸財団等への助成金申請、値引き交渉などと私ができる範囲の渉外に努力しましたが、何よりも休日や勤務後の時間に集まってくださった実行委員の方々のご尽力に深く感謝しています。当日は、名古屋国際会議場の使用規則により開始1時間前にしか搬入・準備ができない厳しい状況でしたが、学生たちの協力を得て何とか進められたのも実行委員パワーの賜と思います。しかし、細かな点では至らない点があったことと思います。改めてお詫び申し上げます。

開始直後の学会長基調講演はもとより、最後のシンポジウムにもたくさんの方がご参加くださいました。歴代の学会長(旧・実行委員長)からは「いい学会ですね」「大成功

ですね」などと声をかけていただき、何よりの励みとなりました。学術集会の運営を通して再確認することのできた本学会の意義や使命は今後の学会運営に反映させていきたいと思えます。最後になりましたが、ご後援およびご協賛頂きました大学および団体各位に衷心よりお礼申し上げます。

## ● 第14回 学術集会を終えて ●

事務局長 下村淳子  
(愛知教育大学附属高等学校)

第14回学術集会が終わって早2ヶ月が経ち、準備に明け暮れた日々が今は懐かしく思い出されます。

この度の学術集会は、後藤ひとみ学会長を中心に9名の実行委員で準備しました。「養護教諭の学びにつながる学会にしたい」、「一般の方に養護教諭という職を知ってもらいたい」という学会長の強い思いを受けて、実行委員には現職の養護教諭が多く加わりました。「養護教諭の学びにつながるテーマは一体何だろうか」「どのような企画を望んでいるのだろうか」と、養護教諭の視点で特別講演やワークショップの企画に参加できたことは良い思い出となりました。実行委員会の事務局長として、HPの立ち上げからスタートした仕事は次第に量を増し、会場の下見・打ち合わせ、協賛団体・企業との連絡調整、作業マニュアルづくり、掲示物作成など多岐にわたりました。学会長との徹夜も懐かしい思い出です。

当日は準備の甲斐あって、全国から多くの方にご参加いただくことができました。主催者の一人として心から感謝申し上げます。合わせて、一日目の会場では窮屈な思いをさせ

てしまいましたことをお詫び致します。愛知教育大学養護教諭養成課程4年生たちの大活躍もあって、参加した方から「よく準備しましたね」「良い学会でしたね」と労いのお言葉を頂くこともでき、何とか無事に責任を果たすことができたように感じています。来年の北海道には参加者として伺います。皆様と再びお目にかかれますことを楽しみにしています。

### ◇◇◇第14回学術集会参加者の声◇◇◇

#### 第14回学術集会からの学び

鈴木美代子（川崎市立下河原小学校）

この学会に入会したきっかけは、愛知教育大学へ専修免許状の単位修得に通ったときです。後藤ひとみ先生の履修科目で、「養護教諭にとってのエビデンスは？ 科学的エビデンスとは？」と、この言葉が頭から離れなくなったのです。そこで、研究の基礎基本をもう一度見直し研究研修を重ねていこうと思ったのです。

今回のメインテーマである「養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める」には、今まで以上に心を動かされ、身近に寄り添った興味深いもので、特別講演、ワークショップには期待が大きかったです。また、研究発表も幅広く興味関心がありました。

“こころ”のワークショップ「軽度発達障害へのかかわり」に参加し、この中で、睡眠覚醒リズム、睡眠は脳と心の栄養という言葉が妙に係ってきたのです。子どもたちの睡眠時間、生活リズムの必要性は分かっているにもかかわらずその成果はあがりません。睡眠について、保健指導・保健学習で6年間を見

通した指導、継続した考えのもと、子どもに意識を育てていけたらと思っています。欲を言えば幼稚園・保育園（所）との連携の上で実践が積み重ねられていくように、実態と学習そして実践を線で結んでいけるようにと日々実践を考えていきたいです。

これからも保健室経営の中で私たちが直面している子どもの体と心からのメッセージを敏感に感じとり、健康教育を進める上での根拠を探していくための楽しい学術集会参加にしていきたいと思います。

#### 初めての参加とポスター発表

藤井則子（蒲郡市立塩津中学校）

蒲郡市養護教諭部会は、今年度、愛知県養護教育研究大会において研究発表をしました。今回の学会長の後藤ひとみ先生には、その発表にむけて平成16年度からスーパーバイザーとしてご助言いただきました。後藤先生からポスターセッションでの発表を勧めていただき、今回はじめて学術集会に参加させていただきました。このような大きな会でポスターセッションを行うことは、5名の参加者全員にとって初めての経験であり、私たちの発表に皆さんが興味を示していただけののだろうか、10分間とはいえ発表を聞いてくださる方がいるだろうか、不安な気持ちで当日を迎えました。

しかし、私たちが思っていた以上に、たくさんの方がポスターセッション会場に足を運んでくださいました。おかげで、私たちが作成した「活動展開モデル案」は、宮崎まで旅をすることになりました。3年間の研究成果を全国の方に知っていただき、少しでも養護教諭の執務の参考にさせていただいたら

光栄です。

また、講演や口演等に参加し、日頃の研修では得ることができない発見をいくつかすることができました。特に最後のシンポジウムでは、シンポジストやフロアからのご意見をうかがうなかで、日々の執務に対する反省と同時に向上心を養うこともでき、大変勉強になりました。

このような貴重な会への参加の機会を助言してくださった後藤先生に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 養護教諭を目指す学生として

反保 侑子（浅井学園大学 4年生）

初めて日本養護教諭教育学会に参加させていただき、現職の養護教諭の方や、大学で養護教諭の養成などに携わっている先生方など、偉大な先生方の研究を聞かせていただき、目が覚めるような刺激と影響を受けました。

今回の学会のメインテーマは、「養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める」でした。学会に参加し、現場の実態を数字や事例で知ることができ、そこで得られた“理論”を聞くことができました。私も1日でも早く現場に立ち、この“理論”を“実践”に役立て、そして“実践”の中で“研究”し、自らの“理論”を構築したいと思いました。

私が1番興味を持って聞かせていただいたのは、松本恵先生の「養護教諭の日常的職務に関する質的研究の試みー保健室登校を手がかりとしてー」の研究報告でした。この研究は、養護教諭と保健室登校生徒、来室者とのやり取りから、養護教諭の多忙感に注目

し研究をしていました。実際の対応や、養護教諭の職務の多忙さを想像することができました。また、私が養護実習を行う中で感じた、養護教諭と他の職員が協働することの大切さを、改めて感じました。

最後に、私が高校生の時にお世話になり、とても尊敬している養護教諭の先生との再会は、私にとって「運命」を感じるほどのできごとでした。これからも、「無限の可能性を持っている子どもたちが、明るい未来に向かって生きていけますように」という、強い祈りにも似た思いを持ち続け、努力を重ねていきたいと思います。

## 第14回

## 学術集会アンケート結果

学術集会実行委員会

皆様のご協力のもと、2日間の予定を無事に終えることができました。改めてお礼申し上げます。抄録集とともにお配りしましたアンケートに対し、63名（会員37名、会員外18名、学生7名、無回答1名）の方からご回答いただきました。その内容は下記の通りです。

### 1. 回答者の地域

愛知県(28)、他県(27)、無回答(8)

### 2. 学術集会開催を知った情報源(複数回答)

ハーモニー(21)、チラシ(20)、学会誌(19)、雑誌(9)、ホームページ(7)

※チラシは他学会の開催会場や愛知県内で開催された養護教諭団体の研究会で配付しました。その効果はあったようです。

### 3. 良かった企画(複数回答)

ランチオンセミナー(27)、特別講演(25)、

シンポジウム (24)、ワークショップ (24)、  
一般演題 (23)、学会長基調講演 (22)、  
養護教諭の専門領域に関する用語の検討  
プロジェクト (14)、学会助成研究 (13)  
※年次企画として、特に考えたものは好評  
でした。

#### 4. 運営に関する感想・意見

##### ①会場へのアクセス

良い (51)、どちらでもない (9)、  
良くない (2)、無回答 (1)

##### ②会場の広さ

ちょうど良い (39)、広すぎる (20)、  
狭すぎる (3)、無回答 (1)

※1日目は予想以上の盛況で会場が狭く  
なりました。2日目は会場が増えた分、  
広すぎると感じられたようです。

##### ③会場の設備

充分 (31)、改善必要 (10)、無回答 (22)

※名古屋国際会議場のメンテナンスに不  
備があり、マイク感度や空調等への改  
善要望がありました。申し訳ございま  
せんでした。

##### ④スタッフの対応

良い (56)、どちらでもない (5)、  
無回答 (2)

※学生の対応をほめていただきました。  
自主的に集まってくれた学生たちです。  
感想をうかがって喜んでいました。

##### ⑤学会の日程

適当 (55)、もっと短縮 (3)、  
もっと長く (2)、無回答 (3)

※2日間での開催は定着しました。しかし、  
1日半の日程でプログラムを組むのは  
大変でした。

#### 5. 記述内容について

##### ①企画に関する感想・意見から

「ランチョンセミナーで子どもの健康指  
導に関わる最新情報を聞いてよかった。今  
後も取り入れて欲しい。」「どの話も今後  
の自分の執務への刺激になった。」「ワー  
クショップは新しい企画で中身があり勉  
強になった。」など、年次企画として工夫  
した内容へのお褒めの言葉を多々いた  
だきました。しかしながら、こころのワー  
クショップへの参加は人数制限があつて整  
理券配付としたため「抽選にすべきであ  
る。」とのご意見もありました。

##### ②運営に関する感想・意見から

名古屋国際会議場という大きな場所  
での開催であったため、「会場が離れてい  
て移動時間がかかった。」「空調が効き過  
ぎて寒かった。」「マイクが聞こえにく  
かった。」「スライドが見えにくかつた。」  
などのご指摘をいただきました。しかし、  
「全般的によく準備されていて参加者も  
多く充実した学会だった。」「スタッフ  
が親切だった。」「学生さんの笑顔と  
対応に気持ちよく過ごせた学会だ  
った。」などの嬉しいメッセージを  
いただきました。

#### 6. 次年度の学会に取り上げてほしいこと

「若い世代の養護教諭を育てていくよ  
うな内容」「今年度のシンポジウムの  
内容をさらに深める」「用語の検討を  
さらに深める」「研究能力を高める  
ためのレポートや資料のまとめ方」  
などのご意見がありました。

アンケートにご協力いただきました方々  
にお礼申し上げます。皆様からの貴重  
なご意見は、第15回学術集会の  
実行委員会へ申し送りさせていただきます。



## 「養護教諭の専門領域に関する 用語の検討プロジェクトについて」 —最終報告を終えて—

ハーモニー第41号送付時に同封しました抽出用語30語の「英語表記・キーワード・定義」に対して8名の会員からご意見を頂きました。これらをふまえて、第14回学術集会の第1日目に鈴木裕子委員を発表者として本プロジェクトの最終報告を行いました。当日は、再検討した「英語表記・キーワード・定義」に「解説」を付記した一覧表を資料として配付しました。この資料は、学会HPに掲載していますのでご覧下さい。

報告内容は、プロジェクトの検討経緯、事前配付した「英語表記・キーワード・定義」に対する会員からの意見、30語の「英語表記・キーワード・定義・解説」の原案、今後の予定で構成し、会員からの意見について再検討した結果も報告しました。

フロアからは、「1. 養護」や「22. 養護教諭の職務」において養護教諭の特質や固有性を強調すべきである、「11. 保健管理」の定義にある学習指導要領との関係がわかりにくい、「20. 保健室登校」の英語表記にあるattendanceでは保健室への登校が教育活動の一部であることを表していない、参考文献に整合性をもたせてほしいといった貴重なご意見を頂きました。

これらの意見や後日頂いた本学会名誉会員でいらっしゃる杉浦守邦先生のご意見を参考にして、11月25日(土)～26日(日)に第11回会合を開催しました。この会合では、30語に関する「英語表記・キーワード・定義・解説」の原案について一つ一つ検討し、次のような作成上の留意点を再確認しまし

た。

### <用語集作成上の留意点>

- ①英語表記：schoolを付ける語と付けない語の区分を明確にし、付した場合は解説の中で説明する。
- ②定義：「○○とは～である」のように述べ、200字以内で簡潔にまとめる。
- ③キーワード：定義や解説の中で使用されている語句を10語以内で示す。
- ④解説：1,600字以内を原則として、定義についてわかりやすく説明する。一部の用語では類義語を挙げ、その意味も補足する。30語のうちの他の用語とも関連づけて述べる。
- ⑤文献：引用文献は精選し、他分野の引用はその道の専門家による記述を用いる。参考文献と引用文献は分けて表記する。

### <用語全体の構成上の特色>

これまで便宜的に各用語に1～30までの番号を付してきましたが、その特質から30語は下記のような4グループに区分できます。そこで、特に③や④に位置づく用語では、一般的な説明にとどめず、養護教諭の専門性にどのようにかわるのかを明記することで「養護教諭の専門領域に関する用語である意味」を明らかにすることを確認しました。

- ①養護や養護教諭という言葉が含まれている養護教諭固有の用語(11語)：1. 養護、2. 養護教諭、3. 養護教諭教育、12. 養護実習、16. 養護学、17. 養護実践、18. 養護診断、19. 養護教諭の活動過程、21. 養護教諭の資質・能力、22. 養護教諭の職務、23. (養護教諭の)…観
- ②養護教諭の専門性を示す上で欠かせない用語(7語)：4. 保健室、5. 保健室経営、6. 学校保健、7. 学校保健経営、8. 健康

相談活動、9. 救急処置／救急処置活動、  
20. 保健室登校

- ③健康に関する事柄であり学校という視点が必要な用語（6語）：10. 健康教育、11. 保健管理、13. 健康診断、14. 健康観察、24. 健康課題、25. ヘルスプロモーション
- ④一般的に使われる言葉であるが養護教諭にとって重要な意味をもつ用語（6語）：15. 組織活動、26. アセスメント、27. 支援、28. 連携、29. コーディネート、30. 危機管理

#### <用語集へのご意見について>

以上のような事柄に留意し、これまでに頂いた会員からのご意見を参考にし、最終的な修正を行っています。会員の皆様におかれましては、学術集会で配付しました「養護教諭の専門領域に関する用語の解説（案）」をご覧いただき、2007年1月15日（月）必着にて学会事務局（JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp, FAX:0566-26-2491）までご意見をお願い致します。なお、今後の進捗状況はHPにて報告致します。是非、ご覧下さい。

（検討プロジェクト代表）

## トピックス

### 特別支援教育の推進のための 学校教育法等の一部改正について

鈴木裕子（横浜市教育委員会）

特別支援教育に関わる学校教育法等の一部を改正する法律が公布され、来年4月1日から施行されることになりました。内容は、特別支援学校に関することと、一般の学校に関することの2つに分けられます。

#### <特別支援学校に関すること>

- ①盲学校、聾学校、養護学校を障害種別での区分をなくし「特別支援学校」とする
- ②盲学校、聾学校、養護学校の教員免許状を「特別支援学校教員免許状」に改める（免許授与にあたっては専門の領域を定める）
- ③特別支援学校は、幼・小・中・高校等の要請に応じて助言や援助を行うよう努める

なお、各特別支援学校がいずれの障害種別に対応した教育を行うかは地域の実情に応じてそれぞれの設置者が判断することとなっているので、ただちに全ての特別支援学校が全ての障害に対応するわけではありませんが、重複障害等への対応はこれまでより充実することになると思われます。

#### <一般の学校に関すること>

- ①幼・小・中・高校等で教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対して、障害による学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う
- ②「特殊学級」は「特別支援学級」に変更して存続する

一般の学校については、従来、特殊学級と通級による指導についてしか定められておらず、今回初めて法律に小中学校等での特別支援教育を推進するための規定が位置づけられたこととなります。

養護教諭に直接関わる記述はありませんが、教員養成や現職研修での特別支援教育への理解促進が求められており、養護教諭もそれに応じた研鑽を積む必要があると思われます。



## 2005 ガイドラインによる

## 心肺蘇生法

竹田由美子（神奈川県立保健福祉大学）

2005年11月に改正された心肺蘇生法ガイドラインの強調点と変更点です。

成人に対する心肺蘇生法の実際

- ①周囲の状況の観察
- ②全身の観察
- ③意識の確認：肩を叩きながら相手の耳元で大きな声で呼びかける
- ④協力者の要請：119番通報とAEDの依頼
- ⑤気道確保：硬い所に仰向けにし、頭側の手で額を押さえ、足側の手の人差し指と中指で顎を上を持ち上げる。（頭部後屈顎先挙上法）
- ⑥呼吸の確認：相手の鼻先に耳を近づけて呼吸音を聞き、吐息を感じ、目で胸の動きを確認（5～10秒以内）する。
- ⑦人工呼吸：額の手の親指と人差し指で鼻をつまみ約1秒間、胸部が軽く膨らむのを確認し2回息を吹き込む。

\*循環のサインは確認しない。

- ⑧心臓マッサージ：身体の中真中（胸骨上）の乳頭と乳頭を結んだ線上に手掌基部を置き、胸が4～5cm程度沈むように圧迫し（胸骨圧迫）圧迫後は完全に胸郭が戻ることを確認。肘は真っ直ぐで、約100回/分の速さ（強く早く）で圧迫を繰り返す。（心臓マッサージ30回：人工呼吸2回）。
  - ⑨AEDによる除細動：1回通電しその後直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生法を行う。  
リズム確認は5サイクルの心肺蘇生後
- \* 1～8歳の小児に対してAEDを使用する。

日本養護教諭教育学会  
2006年度総会報告（速報）

平成18年度総会は、会員226名（含む委任状91名）の出席により開催されました。林典子会員と徳山理事による議長のもとに審議・承認されましたので報告します。

議案1 2005年度事業報告：第13回学術集会（埼玉）に252名の参加者があったことなどが報告され、承認された。

議案2 2005年度決算・監査報告：決算が報告され、浅利・貴志会計監査委員の監査報告を受けて承認された。

議案3 2006年度事業経過報告：「養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト」（代表：後藤ひとみ、植田誠治）の最終報告が行われて、用語集作成に向けた検討を進めていること、学会助成研究「養護診断開発のための基礎的・実践的研究—四肢の痛みの訴えを例に一」（代表：岡田加奈子）による研究成果が第14回学術集会以て発表されたこと、日本学術会議より日本学術会議協力学術研究団体に指定されたこと、日本養護教諭教育学会誌第10巻第1号の発行に向けて作業を進めていることなどが報告され、承認された。

議案4 2006年度補正予算案：前年度繰越金が見込みより増えたことから、会議費・事務費・予備費を増額したことが説明され、原案どおり承認された。

議案5 2007年度事業計画：第15回学術集会以て北海道で開催すること、研究助成を行うこと、日本養護教諭教育学



会誌第 11 巻第 1 号を発行することなどが提案され、新たな事業として、次期役員の選出にむけた委員会の発足、学会設立 20 周年記念事業に向けた計画を進めることが提案され、原案どおり承認された。

議案 6 2007 年度予算案：原案どおり承認された。

議案 7 研究助成金対象研究の選定について：申請の〆切を 2007 年 3 月 15 日まで延長し、2007 年度第 1 回理事会で選定することが提案され、承認された。

議案 8 研究助成金対象研究の選定基準について：研究担当者の資格、研究計画についての基準が提案され、承認された。

議案 9 「日本養護教諭教育学会会則」「日本養護教諭教育学会会則実施細則」の改正について：次期役員の選出方法の変更に伴う改正案が提案され、若干の語句訂正をすることで、承認された。

議案 10  
議案 11 「日本養護教諭教育学会誌投稿規定」の改正について：改正案が提案され、原案どおり承認された。

議案 12 理事長より、今年度から次々回の学術集会開催地を報告したいとの提案がされ、承認された。これに伴い、2008 年度は岡山県であることが報告された。

総会の後、第 15 回学術集会学会長である北海道教育大学札幌校の津村直子会員から浅井学園大学と協力して 2007 年 10 月 6 日～7 日に札幌市で開催するとの挨拶があった。

## 2007 年度 研究助成金の申請を募集します！

2007 年度研究助成金については、2006 年度総会で申請方法と選定基準についての決定に基づいて、再募集することになりました。

申請書は、学会ホームページ「2007 年度研究助成の募集について」に掲載しています。この助成金申請書 (PDF) を印刷し、必要事項をご記入の上、2007 年 3 月 15 日 (木) までに学会事務局へ FAX または郵便にてお申し込み下さい。選定結果は、2007 年 5 月発行予定のハーモニー 第 43 号で報告します。

なお研究助成の選定は、1) 研究担当者の資格 (①申請資格の有無、②これまでの助成金取得状況の有無、③年令)、ならびに 2) 研究計画 (①研究目的、②研究方法、③研究計画の適切性、④研究の独自性、⑤助成金の使途) を基準に行ないます。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

(研究活動担当：高橋香代)

## — 日本学術会議協力学術研究団体に指定されました —

以前より登録を切望していました日本学術会議に 2006 年 9 月 25 日付で「協力学術研究団体」として指定されました。

申請準備は数年前より進めていましたが、日本学術会議の組織改編があり、新しい制度の発足まで手続きを待たされてきました。新制度では、これまでの学術団体という登録はなくなり、新たに協力学術研究団体の指定

を受けることになりました。今回の指定により、本学会は学術的な協力ができる団体として認定されたと言えます。詳細は、日本学術会議 HP (<http://www.scj.go.jp/>) をご覧下さい。トップページの国内活動を開くと日本学術会議協力学術研究団体の一覧を見ることができます。(理事長)

—新・編集委員会委員をご紹介します—

第IV期の理事会発足に伴い、新たな編集委員会を組織しました。これまでは理事全員が編集委員を兼任していましたが、今期より学会誌発行にかかわる業務を担当している理事のみの兼任としました。編集委員は次の方々です。本学会の学術研究の発展にむけて努力したいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

(編集委員長 竹田由美子)

編集委員 <50音順>

木幡美奈子(北区立王子第五小学校)、後藤ひとみ(愛知教育大学)、斉藤ふくみ(熊本大学)、鈴木裕子(横浜市教育委員会)、高橋香代(岡山大学)、田嶋八千代(埼玉県立常磐高等学校)、中川優子(藤沢市立藤ヶ岡中学校)、中根浩美(埼玉県立川越工業高等学校)、山崎隆恵(神奈川県立藤沢総合高等学校)

—新・事務局体制についてお知らせします—

本学会則第11条の規定に則り、次の方々が事務局長および幹事として指名されました。

事務局長：下村淳子(愛知教育大学附属高等学校)、幹事：野谷昌子(名古屋学芸大学)・圓岡和子(豊田市立豊田養護学校)

事務局員は、引き続き鈴木愛さんです。今後ともご支援のほどをお願い致します。

◎事務局より◎

第14回学術集会会場にて会員名簿(2006年10月版)を配付しました。当日参加されていなかった会員には、今回同封致しました。修正がございましたら、学会事務局までお知らせ下さい。

▼編集後記▼▼▼

冬は睡眠時間を少し多めにとって体力を蓄えましょう。

よい年をお迎えください。(F)

